札幌移住日誌　「冬」

2014 年 3 月、長年住み慣れた所沢市から一家で北の大地、札幌に移住して初めての冬を迎えました。
札幌市内は 11 月中旬に初雪を観測し、2008 年以来の積雪 12 ㎝を記録しました。そして 12 月に入ると 1 日の最高気温がマイナスという日が頻繁に記録されました。
こちらの雪質は水分を多く含まず、さらさらの粉雪状態のため、傘をさす必要がありません。玄関の前でパタパタと手で雪を払っておしまいです。
一方、道路面はカチカチに凍って市内全域がスケートリンク状態になり、ゆっくり摺り足で歩いていても時々バランスを崩しそうになります。傘で両手がふさがれ転んだ時にとっさの受け身ができず、とても危険です。そんなこともあって傘をさす人が少ないのでしょう。
こちらの靴は底が滑りにくいような構造になっています。しかしそれでも滑るときはきっちり滑ります。横断歩道で見事に転倒する子供をよく見かけます。若い女性がかかとの高いヒール靴を履いてちょこちょこと短い歩幅で歩く姿はペンギンのよちよち歩きを連想させます。

札幌市（人口 190 万人）は年間積雪量が 6 メートルに達する大豪雪地域です。人口 100 万人を超える世界の都市のなかでも群を抜いて積雪量が多い都市です。
新潟や北陸地方の雪質は水分を多く含み、雪の重量で屋根が押しつぶされたり、屋根から落ちてきた雪の下敷きで死ぬ人も出てきます。しかし札幌市内で屋根の雪下ろしをしている光景はほとんど見受けられません。外見上屋根は平らに見えますが屋根全体がＹ字構造に作られていて、積もった雪が屋根の中央部分の溝に集まるようになっています。また雪質がサラサラなため時々の強風で吹き飛ばされてしまいます。

屋根の雪おろしはしなくて済みますが、反対に玄関前の雪かきは欠かせません。積雪量が多い日は 1 日 2 回雪かきをすることもしばしばです。通称「ママダンプ」というそりを使い、敷地内のスペースに雪を集め踏み固め、踏み固められた雪は何層にも重なり、大人の背丈ほどの高さになります。敷地内で処理しきれない雪は家の前の公道にバリケードのごとく積み上げています。そのため広めに作ってある道路も狭くなり、対向車線を気にしながら慎重な運転を心掛けなければなりません。

関連して車についてお話しします。外出先で屋根のない駐車場に長時間駐車するときには 2 つのことを注意します。ワイパーはフロントガラスに密着させないよう上にはねあげておきます。またサイドミラーも閉じずにそのままの状態にしておきます。なぜならワイパーもサイドミラーも凍り付いて動かなくなる恐れが出てきます。日頃あまり開閉しない後部

座席側のドアーも凍り付いてあけられなくなったことがありました。
また車はできれば全輪駆動車（４ＷＤ）がよいでしょう。凍った坂道の登坂や路面でのスリップ防止にも４ＷＤのほうが性能的に優れています。しかし 2 輪駆動でも札幌市内では十分機能します。最低限スノータイヤを履いていればそれほど運転に支障を感じることはありません。冬季は自転車が使えない分、移動手段として車は必需品です。近くのスーパーの買い物にも車を使わざるを得ません。頻繁には起こりませんが暴風雪の時はＴＶでも「できるだけ外出を控えてください」という注意が促されるほどですから。
お年寄りで車を運転できない人は買い物にそりを引いていきます。また小さな子供をそりに載せる母子の姿も見かけます。

冬季は市内全域がスケートリンク状態となりますが、自然豊かな札幌には車で 1 時間圏内に数か所のスキー場があります。我が家から 30 分圏内の「藻岩山スキー場」とその裏にある「盤渓スキー場」、さらに 1 時間圏内には「手稲スキー場」と「札幌国際」があります。
また子供が楽しめる南区の「国立滝野公園」はそり滑りやタイヤチューブ滑りが無料でできます。手作りの雪の滑り台は大通公園内や学校の校庭、町中の小さな公園でも、いたるところに見かけます。
無料といえば市内中心部にある「中島公園」は歩くスキーができます。道具も無料で借りられこちらはシルバー層中心の冬の楽しみの場になっています。

冬季はどうしても行動範囲と頻度が制限されるので、たとえば食料品の購入は一度に大量の品を購入する傾向があります。しかし、冷蔵庫のスペースが限られるので、クーラーボックスに入りきらない冷凍品などを入れてベランダに出しておきます。ベランダが天然の冷凍室に早変わりするのです。

6 メートルに達する積雪処理は大半が市内の中心に流れる豊平川の河川敷に捨てられます。
札幌市の雪対策費用は年間 180 億円を超えます。一人当たり千円弱かかる計算です。
ひたすら雪をかき集め川に流してしまっていますが、札幌も年々夏の暑さが厳しくなり、一般家庭でもクーラーを取り付けたお宅をちらほら見かけます。
そこで思うのは小売店から大規模店舗、オフィスビルや公共施設、地下街など常時冷房を必要とする地域全体に冷気を供給するエネルギーとしてありあまる雪を利用すればいいのではないかと思います。
たとえば廃校になった小学校の校庭に巨大氷室を建て、集めた雪を圧縮して巨大な氷の塊を作り、夏に自然解凍させてその冷気を地域に供給する。北海道電力の電気を使わず夏の電力消費量を大幅に減らし、なんとしても泊原発の再稼働を阻止するのです。
この国のエネルギー政策は食糧自給とおなじ「地産地消」を基本にした政策にかじを切り替える必要があります。なぜならこの国は人口が減り食料も電力もそしてあらゆるモノが

売れなくなる時代が確実に来ます。つまり供給が需要を上回る時代が目の前に迫っているのです。安倍政権のような過去の成功体験を金科玉条のごとくしがみつくのは得策ではありません。
これまでのような経済成長を望むこと、さらにお金が人の幸せや豊かさを推し量る物差しにはなりえません。これからは過去の成功体験を追い求めるのではなく、大胆な価値観の転換が必要になるのです。

先般、十勝地方で自然農法による農家の方の話を聞く機会がありました。食と農に関心のある方々が私を含め 20 人ほど集まりました。参加者の自己紹介で私も札幌移住に関する簡単な話をしました。移住の理由の一つに原発事故の恐ろしさと、この国のエネルギー政策ののでたらめさ、とくに今後も原発に依存する姿勢に強い危機感を持ちました。国民の安全を第一義的に考えないこの国に幻滅し、「身の安全は自分で守る」ことと考え移住を決断したことを話しました。すると小さな乳飲み子を抱えた女性も私とまったく同じ理由から夫の郷里である岩見沢に東京から転居したというのです。この女性は某美術出版に勤務しており、移住後も退職せずスカイプで編集会議をこなし、子育てしながら在宅勤務をしていました。
彼女の話によれば、フリーのカメラマン、編集者などかなりの数の人たちが札幌に移住しているといいます。

移住を決断・実行に移す人はもちろん現時点では少数派でしょう。変人扱いされることもしばしばです。しかし、この世の中、現在の非常識が将来の常識に転ずることは経験上よくあることを知っています。そこで私の友人たちにも機会があるたびに札幌移住を奨めています。
表向きの移住の理由は記述の通りですが、ちょっぴり本音を言えば親しい友人と時々、この時期ならではの雪見酒をやりながらバカ話をしたいというのが正直な気持ちです。